

ら事故が起こる。そこに踏み込まない、今までの改善命令だとか、何とかの報告書だとか、あんなものをいくら出している、必ず事故が起こります。だから、全部変えてしまえという事なのです。日本航空はついに決心をして、全部変えるという、今別の向きに動き出した。今、すごいのは、今度やっている社長のその次の代表権を持っている人は2人しかいないけど、もう一人の人が安全を全部直接統括するという組織運営に変えました。安全啓発センターという名前ですが、みなさんにお見せしますからどうぞおいでください、とやっている。

人の注意力には限りがあります。トラブル前に適当にみんながやっているのに、周りがうるさく言うと、みんな細かい方に細かい方に注意をせざるを得なくなります。そして、一番大事な上のところが飛び出すのです。

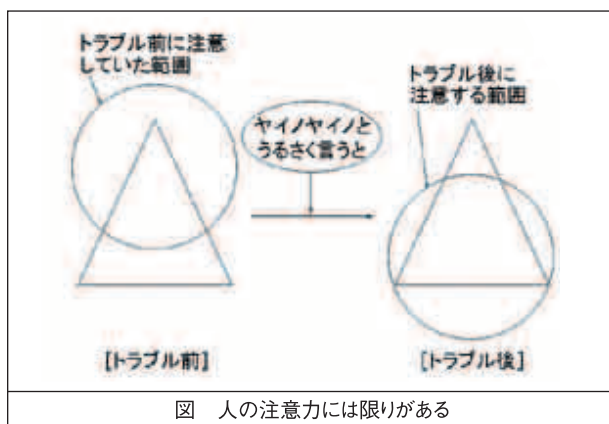


図 人の注意力には限りがある

実は運輸業にとって、一番大事なのは、安全です。2番目が定時性です。3番目が快適性です。4番目が経済性です。そういうふうに出て上がっていて、本当に良い具合にみんなが運営しているのに、一個トラブルがあるとあいつが悪い、こいつが悪いとぐちゃぐちゃ言って、さらに規則を増やす。特にお役人がどんどん増やす事が一番いけない。それで、その上、規則がないからいけないというので、新聞報道でマニュアルすらなかったと書かれる。マニュアルがあれば防げるのかというそうではないのに、形の上だけでやるから、みんなその現場にいる人たちが細かい事ばかりをやる。やっているうちに一番大事なところが抜けてしまった。福知山線の事故の運転手はすごくか

わいそうで、定時性のところばかりが一番大事になってしまって、定時性の事だけ考えていたから、あんなことになる。その時には安全性というものを忘れてしまった。人間は、やいのやいのと言われたらそればかり考えるようになる。そんなに追い込んだ人事管理をやらなくてもすむような文化を創らないと、本当の安全というのはできないと言いたいのです。

### 9.国土計画を立案・実行する上で留意すべきこと

国土計画を立案実行するところで留意すべき事というのを、いくつか書いてきました。社会は常に変化している事に気づかないといけません。しかし、見たくないものは見えません。見たくないようにしないと駄目だよ。それから自分が仕事をしていると、どうしてもそれが大事に見えてしがみつきたくなる。自分の座布団にしがみつかない。必要な時は自分で座布団をどかす勇気を持ちなさい。次に、社会が求めているものに敏感になる必要があります。例えば、スマトラ沖の地震の時に、助かった人は誰か、モスクに逃げ込んだ人だけでしょう。あとはみんな死んでいる。そうだったら、次の南海地震、東南海地震の時に何をやらないといけないか、日本の中に早くモスクを建てることなのです。防潮堤を造ることじゃないのです。地震計に何かをくっつけて、予防システムがあると、予防の警報が鳴ってもどこに逃げればいいのか、逃げ場を造っていないのです。次に、豊かな構想力を持ちなさいということです。避難きのこを造りなさい。津波被害の最小化ができます。その次、最悪の事態に備える。過去に学んで逆演算と仮想演習をやるしかない。

みんな見ている時に見たくない後ろに鬼がいるけれど、こちらから見るとみんな平和に見えるのです。横から見てみる、視点を変えてみると危険が見えるわけです。

次に、座布団は、自分が座っているとずっと座っていたい。でも、ちゃんと右のように自分から降りて、はい、さようならという勇気をお持ちなされ。

そして、これが僕の大提案です。海岸べりに、500メートルに一個くらいずつ直径10メートル、この真ん中のボールの太さ、3メートルくらい。外側に螺旋階段をくっつけて、高さ10メートル